

感動一点の場

『冬の始まり』
1978年 小川原 脩 画



みなさんが冬の訪れを感じるのは、どんな時でしょうか。雪虫が飛び始め、初雪がちらつき、そして、よく冷えた晩の翌朝、山頂の雪を目にしてしまったら、もうすぐ麓の町にも本格的な雪の季節がやってきます。今回紹介する作品はまさに、倶知安の『冬の始まり』の光景と言えるでしょう。三角屋根がいくつか続く街並みの向こうには、山裾から連なる丘、さらには雪化粧したイワオヌプリ。あの真っ白な雪は次第に麓へとやってきて、町全体を覆い尽くす白い季節が始まります。じゃれ合う犬は、冬の到来を心待ちにしているようにも見えます。

先日、倶知安風土館を訪れた小学生が「この町の歴史や昔の様子が分かるような、古い絵はありますか」と質問してくれました。「風土館に絵画の資料はありませんが、美術館では作品をたくさん保管していますよ」とお伝えし、小川原脩は大正から昭和、それぞれの時代の様子を作品にしているお話をしました。この作品も1970年代終わり頃の倶知安の姿ではありますが、時代を超えて私たちも感ずる季節の移ろいがあるように思います。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

ふるさと探訪

463回

ジャガイモ王国 倶知安

倶知安町のジャガイモ栽培は、明治25年（1892年）に開拓の祖であった真鍋浜三郎^{はまさぶろう}によって栽培されたのが始まりとされています。しかし、ジャガイモ王国倶知安の礎を築いたのは明治42年（1909年）、柳原寅蔵^{とらぞう}によって品種改良された倶知安産の新品種「蝦夷錦^{えぞにしき}」の誕生によります。味の良さから、大正末期～昭和初期にかけて、倶知安作付トップとなり、昭和4年（1929年）、北海道の優良品種に指定され一流の銘柄となりましたが、「蝦夷錦」には一つ欠点がありました。それは病気に弱い品種だということです。そのため、次第に後続の「男爵」に追い越され、戦後はほとんど姿を消しました。「蝦夷錦」に取って代わった「男爵」は現在でも十勝の「メークイン」と並んでジャガイモの主要二大品種として栽培されています。

しかし、昭和47年（1972年）に発生した「ジャガイモシストセンチュウ」という寄生虫が倶知安のジャガイモ農家を脅かしました。そのため発生地域内のジャガイモ農家は生産中止に追い込まれ大きな痛手を受けることになりました。その反省からその後は「ジャガイモシストセンチュウ」に抵抗性のある新種の開発に努め、その結果「きたあかり」、「とうや」、「さやか」、「きたかむい」などの新品種が誕生しました。

危機を克服するための努力が新しいものを生み出します。南アメリカのアンデス山脈を原産地とするジャガイモはヨーロッパ人によって世界に広められ、現在世界で約2,000品種、日本では50品種ほどが生産されていると言われています。これからも、多くの人々の努力によって、良質のジャガイモが誕生することでしょう。

文：林 伸也（倶知安風土館 学芸補助職員）



▲男爵

展覧会のお知らせ

■第1展示室

第63回「麓彩会展」

1958年、小川原脩をはじめとする8人の発起人により創設された「麓彩会」。小川原が「地方文化の苗床」として位置付けた麓彩会展は今年で63回目を迎えます。地域にゆかりが深い作家、また、この地域に根差した創作活動を展開する作家の最近の作品など、地域の多彩な美術を紹介します。

会期：開催中～令和4年1月16日(日)

■第2展示室

小川原脩・谷口一芳 二人展「仲間たちへのオマージュ」

谷口一芳^{いっぽう}（1919-2013）は、野鳥や自然保護への強い関心から、専ら鳥^{ふくろう}を題材とし、鳥への畏敬、愛慕、賛歌を込め、自然との共生、深奥幽玄の世界を追求。麓彩会展にも第9回展（1967）より参加。この倶知安の地で交流を深め、それぞれに動物たちへの想いを絵画へと込めた画家二人の作品をご覧ください。

会期：開催中～令和4年2月13日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

世界のグレートアーティスト (17)「太陽王の時代 ルイ14世コレクション」

日時：11月6日(土) 14時～15時 会場：映像ルーム（無料）

お話：柴 勤（館長）

おとなの手しごと (7)「フクロウ・ペーパーレリーフ」

日時：11月13日(土) 14時～16時 会場：ロビー（無料）

お相手：沼田 絵美（学芸員） 定員：10名※要予約

小川原脩・谷口一芳 二人展のフクロウ作品をモチーフにペーパーレリーフ作りに挑戦します。

絵画で楽しむバリの情景 (5)「バレエに魅せられた画家 ドガ」

日時：11月20日(土) 14時～15時 会場：映像ルーム（無料）

お話：柴 勤（館長）

京都逍遥 (5)「平安貴族の夢を追う（嵯峨野）」

日時：11月27日(土) 14時～15時20分 会場：映像ルーム（無料）

お話：柴 勤（館長）

■金曜ナイトサロン

「美術館でフランス語～ゼロからの旅立ち⑮・⑯」

日時：⑮ 11月12日(金) ⑯ 11月26日(金) 各18時～19時

会場：映像ルーム（無料）

お話：柴 勤（館長） 定員：5名程度※要予約

倶知安風土館イベントのお知らせ

■寺子屋ミュージアム（小中学生向けイベント）

「じゃがいもから片栗粉を作ろう」

昔、倶知安には、でんぷん工場がたくさんありました。じゃがいもから片栗粉を作りながら、でんぷん作りの歴史を学びましょう

日時：11月3日(水) 13時～16時30分 定員：10名※要予約・先着順 場所：風土館

講師：林 伸也（風土館職員） 参加費：無料

★文化の日（11月3日(水)）は美術館・風土館観覧無料

美術館では絵画コンクール「ふるさとを描こう」の作品展示をしています。ぜひお越しください。

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円（400円）

高校生 300円（200円）

小中学生 100円（50円）

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円（100円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

11月の休館日 毎週火曜日、24日

※23日は開館

カルチャー・パス

またまたフランスのお話。今年の5月から「カルチャー・パス」なるものが始まったとのこと。

これは18歳の若者を対象に、指定のウェブサイトから登録すると、書籍の購入、美術館や映画館のチケットの予約、ダンスのレッスン受講などに対して、2年間で約4万円分が使えるというもの。さまざまな文化活動や関連商品、サービスの支出に充当することができるのです。

年明けからは、さらに中学生や高校生レベルにまで拡大されます。いかにも「文化の国」フランスらしい政策ですね。ちなみに、気になるその使い道ですが、一説では圧倒的に「manga」の購入に充てられているとか。そう、日本の「漫画」のフランス語版は相変わらず大人気なのです。

館長 柴 勤